医療経営管理学科ディプロマポリシー

社会生活に必須となる汎用的な能力としての総合力を身につけ、卒業に必要な所定の授業科目と単位数を修得した学生は、卒業が認定されます。卒業単位は、学校を卒業するのに必要とされる単位で124単位以上となっています。
主に全学共通教育を通じてなされた教養教育と、本学科の特性に応じて編成された専門教育をともに修得しているかどうかが、卒業認定の基準となっています。
温かい人間性と幅広い教養を身につけ、保健・医療・福祉の専門職として、チーム医療を基盤とした社会力を発揮できる人材に対して学位を授与します。

(1)知識・理解

１．基礎的知識：医療専門職として働くための医学・医療に関する基本的な知識を身につけ、説明することができる。

２．専門的知識：医療専門職が扱う診療記録等の作成および、診療報酬請求業務に関わる医学知識と、医療経営、医療制度、薬剤、医療材料、医療情報学に関する知識を身につけ、説明することができる。

３．応用的知識：医療・医学の知識を、診療記録等の作成や診療報酬請求事務、医師事務作業補助等に活かすことができる。もしくは防災など社会のさまざまな場面において、自らの知識を有効に活かすことができる。

(2)汎用的技能

４．コミュニケーション力：医療機関を意識したホスピタリティのトレーニングを活かし、他人の話をよき聞き、自分とは異なる意見を持つ人とも互いに尊重しながらコミュニケーションをとることができる。

５．レポート作成力：表やグラフを活用してPBL等の成果に関するレポートを作成することができる。

６．ICT活用力：情報コミュニケーション技術(ICT)を用いて、診療情報や医療経営に関する情報収集・分析・プレゼンテーションを行うことができる。

７．問題解決力：PBL（問題解決型学習/プロジェクト学習）により、問題の解決に必要な情報の収集・分析・整理し、チームで取り組むことができる。

(3)態度・志向性

８．チームワーク、リーダーシップ：リエゾンゼミやPBLを通して、チームワーク・リーダーシップを学び、他者に配慮しながら、目標と問題を共有し、協調・協同して行動できる。

９．倫理観：日常生活における道徳・倫理についてよく学び、さらに医療専門職が留意するべき個人情報保護について十分理解し、実践することができる。

10．市民としての社会的責任：社会化・向社会的行動・社会貢献に関する知識と技能を踏まえて、人びとの幸せや地域・社会の発展のために積極的に社会に関与できる。

(4)統合的な学習経験と創造的思考力

11．創造的思考力：自ら課題を設定し、実験・調査などを行い、分析・整理して独自の解決法・解決案を導くことができる。

ディプロマポリシーとの関係（◎特に重要、○重要、△望ましい）

					①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪
					基礎的知識	専門的知識	応用的知識	コミュニケーション力	レポート作成力	ＩＣＴ活用力	問題解決力	チームワーク、リーダーシップ	倫理観	市民としての社会的責任	創造的思考力
	授業科目名	担当者	科目の目標	科目の概要	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
専門基礎科目	医療概論	坪川宏、齊藤幹雄、根岸直樹、舩渡忠男、似内寛、渡部芳彦、河村孝幸、山口政人、関田康慶	医療専門職として働くためには、医学・医療に関する基本的な知識があるだけでなく、患者さんを含めた多くの方とコミュニケーションがとれること、医師・看護師など他の専門職の方とチーム作業ができること、職場内外で良好な対人関係を構築できること、が要求されます。このため、本授業では以下の3項目を達成目標とします。①文献を読んでその内容を説明する、自分の意見を人に伝える、などの基本的なスキルを身につける。②他の人とチームを組んで作業し、その結果を発表することができる。③日本の医療システムの概要を説明することができ、患者さんのケアに何が役立つか指摘できる。	現代の医学・医療は、20世紀以来の科学技術の進歩と相まって目覚ましい発展を遂げ、これまで不治と考えられていた多くの疾患が治療可能になってきました。しかしながら、一方で、医療過誤、医療の質の地域格差、医療保険制度の疲弊など、多くの問題も浮き彫りにされています。この授業では、医療の本質とも言える「患者さんのための医療とは何か」をテーマに掲げ、前期には問題解決のための方法論として「チーム基盤型学習（Team-basedlearning;TBL）」を体験・習得します。後期は、テキストを中心に我国の医療に関わる諸制度について学習し、前期で習得したTBLの方法で課題へアプローチしてゆきます。	◎	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	◎
専門基礎科目	人体構造・機能論	藤井俊勝、舩渡忠男、渡部芳彦、河村孝幸、関田康慶	生物学の基礎的な知識を身につける。ヒトの身体の基礎的な構造と機能についての知識を身につける。	前期は、生物としての人の構造と機能を学ぶ。 後期は、人のそれぞれの機能系について学ぶ。	◎	◎	◎						○		
専門基礎科目	臨床医学総論	舩渡忠男	診療情報管理士資格取得の基礎（医学）として、臨床医学全体の概略について学習してよく理解する。とくに、医学の基礎をしっかりと修得する。	グループ学習を行う：テーマをまとめ、問題の解答を行い、教科書を理解する。1．グループで、教科書の課題内容を話合い、PowerPointにまとめる2．グループ毎に、PowerPointで発表する（1回）3．問題集を解いていく・グループ毎に解答していく－復習・お互いに教え合う	◎	◎	◎						○		

専門基礎科目	医学用語	渡部芳彦	医学に関連する専門用語（英語・日本語）の基礎的知識を修得し、診療記録などの医療情報を正しく理解することを目指します。基礎知識においては、診療情報管理士の認定試験に合格できるレベルを到達目標とします。	医学を学び、将来、医療分野におけるコミュニケーションに対応するためには、医学用語の知識が必須です。本講義では、人体の構造・機能、疾患、症状・症候、診断名、検査・治療方法などに関する専門用語（英語・日本語）の基礎的知識を修得し、診療記録などの医療情報を正しく理解することを目指します。また、単に専門用語の語彙を増やすだけではなく、その意味を理解することにも努めます。	◎	◎	◎	◎				○	○	○	
専門基礎科目	医療情報学	テキスト：日本医療情報学会医療情報技士育成部会『医療情報サブノート』（篠原出版新社）2008年	(1)情報処理技術の基本的な仕組みを説明できる(2)医療機関や地域における、医療情報システムの役割を説明できる(3)医療機関における情報管理者の役割を説明できる	要とされる種々の情報を収集・分析し、そして、的確な意思決定を促すことのできるシステムの開発、展開を研究する分野である。診断、治療に供するのみならず、予防医療、福祉領域および教育用システムの開発・応用にも邁進する。本講義では、電子カルテから遠隔医療にわたるまで、医療保健	◎	◎	◎			◎			◎		
専門基礎科目	医療経営概論	折茂淳	本授業の到達目標として以下の3点を設定している。・医療経営における物の見方、考え方の基礎を習得する・日本と世界の医療制度について具体的な知識を得る・日本の医療の現状と問題点を自分の言葉で説明できる	医療経営を学ぼうとする場合、まず日本の医療制度の特徴を理解し、その問題点を認識することが大切である。本授業では日本と世界の医療制度を知り、その問題点を考察することで、医療経営に対する医療制度の関わりを具体的に示していきたい。	◎	◎	◎	△					○	○	
専門基礎科目	医療管理総論	小森康弘	医療の成立に不可欠な、社会資源の必要性を理解し、医療専門職である『人的資源』、医療施設や設備、医療機器、薬剤、医療材料などの『物理資源』、医療の経済的基盤である医療保険制度を中心とした『財務資源』、そして、近年重要な要素である『医療情報資源』について、具体的に理解し、医療管理に関する要件を総論的に学ぶ機会とする。又、医療制度、医療保障については、その特徴・成り立ち、日本と諸外国との相違点などにも言及していく。医療の需要と供給における課題点や、地域における医療の役割についても理解を深めていく。	①医療資源の理解②医療制度（日本・諸外国）③医療の受容と供給④患者満足度⑤医療の将来像他	◎	◎	◎	△					○	○	
専門基礎科目	医療社会学	岩渕勝好	医療（介護）に関連する社会的な課題や制度設計を考察し、コメディカルとして活躍できる知的水準を目指す。	大震災後の医療に関する課題を考え、さまざまな病気の実態と予防策を検討。さらに医療・介護制度の内容、改革の方向を考える。時代の変化に応じて変更することもある。最新資料、DVD、報道を活用する。	◎	◎	◎	△					○	○	
専門基礎科目	経営学総論	江尻行男	組織体概念としての企業の経営について全般的に理解し、ある程度、説明ができることを目標とする	あらゆる組織には経営があり、営利生産を行う企業もまた経営として行われている。一般に経営学といった場合、企業の経営を指している。本講義は、この企業の経営を総論的に検討する。基礎理解、形態論、経営管理論、経営形態論、財務論などについて学ぶ。尚、最近の企業、産業産業動向についても検討してみたい。			○	○			△		○	○	
専門基礎科目	経営管理論	園田洋一	①社会経済の動向を捉えつつ、その変化の中で事業展開する企業の合理的経営管理活動の特徴にいち早く着目し、課題に対する対策の戦略的意図と構想および方法論が理解できる。②組織の経営管理システムの機能がもたらす効果を推測し、マクロ・ミクロの視点からマネジメントがなすべきことが判断できる。	経営管理とは、企業をはじめとする様々な組織（たとえば行政や学校、病院や社会福祉施設、またはNPOなど）の維持・存続・発展を目指した管理活動だと言える。それは組織理念をもとに活動の方向性を明らかにし、目的達成に向けて組織を誘導しつつ、その取り組みを管理する活動を意味する。今日、組織を取り巻く環境変化は著しいが、これらの変化に対応しながら利害関係者の利益や幸福の最大化を目指した効果的、効率的な活動が求められている。本講義では、経営管理の基礎的知識から理論、経営戦略を含めた活動の実際までを学び、マネジメントの生成、発展、課題と環境変化に対応した解決策を企業事例なども踏まえて理解してもらう。			○		○	△	○		○	○	
専門基礎科目	簿記	日下儀雄	1．決算書の作成日々の取引を記録し、決算処理を行い、決算書（財務諸表）を作成できる能力2．資格取得 7月8日（日）に簿記資格試験（全経）は実施されます。授業時間は不足しましが、チャレンジしてみてください。	簿記の学習をはじめて行なう方を前提として、授業内容を進めていきます。半期での授業内容は、簿記資格試験3級の内容になりますので、たいへん広範囲の内容を学習することになります。最終的は、企業の業績を報告するための決算書を作成でき、その決算書について判断のできる能力を身につくことを目標にしています。情報化社会になり、より簡単に決算書が作成できるようになりましたが、判断するのは人間の力になります。			○		○	△					△
専門基礎科目	情報倫理	生田目学文	情報社会を生きる上で必要な知識、あるいは情報を取り扱う者としての倫理的責任について学ぶことを目的とする。	情報活用に際しての適切な判断、また成文化されている条約や法令等、および不文律のマナーなど、情報の送受信、維持、管理に関わる基本的行動規範について概説する。					○		○	△	◎	◎	△
専門基礎科目	情報処理論Ⅰ	石野莞司	1）コンピュータの入門的な用語を覚える。2）コンピュータ内部で扱われる情報表現法を理解し，説明できるようになる。3）ハードウェアの種類や動作原理を理解し，説明できるようになる。	情報処理技術の概略とこれに関連する基礎知識の習得を目標とする。講義ではまず計算機の発展史を解説し、今日的な情報技術の到達点を論じた後、学習範囲としてハードウェアを中心とし、情報の表現体系、五大装置とその仕組みなどを重点的に学習する。				○	◎	◎					△

専門基礎科目	情報処理論Ⅱ	石野莞司	1）オペレーティングシステの機能と役割を理解する。2）データベースモデルの種類と特徴を理解する。3）コンピュータネットワークの仕組みを理解し、基本的な専門用語を説明できるようになる。	情報処理Iの続編として、ソフトウェア、データーベースシステム、ネットワークシステムについてそれぞれ概説をし、コンピュータシステム全般の基礎知識習得を補完する。それぞれのカテゴリに属する詳細な説明及び専門知識については他の専門科目に委ねることとし、この授業では「コンピュータの世界」を把握するための基礎知識を中心に学習を展開する。					◎	◎					
専門基礎科目	情報処理基礎実習Ⅰ	宮野典子	MicrosoftofficeWord2010を用い、ワープロソフトのスキル向上と、このスキルを有していることを証明するための資格取得を目標とし、パーソナルコンピュータを用いた実習を行う。この科目では、ただ単に資格を取得するだけではなく、実際にワープロソフトを自由自在に操作することができるようなレベルにつながることを重視する。	MOS対策テキストを使用して、WORDで次の操作ができることを到達目標とする。・文書の共有と管理・コンテンツの書式設定・ページレイアウトと再利用可能なコンテンツの適用・図や画像の挿入・文書の校正・参考資料とハイパーリンクの適用・差し込み印刷の実行					◎	◎					○
専門基礎科目	情報処理基礎実習Ⅱ	宮野典子	MicrosoftOfficeExcel2010を用い、表計算ソフトのスキル向上と、このスキルを有していることを証明するための資格取得を目標とし、パーソナルコンピュータを用いた実習を行う。この科目では、ただ単に資格を取得するだけではなく、実際に表計算ソフトを自由自在に操作することができるようなレベルアップにつながることを重視する。	MOS対策テキストを使用して、Excelで次の操作ができるよう実習を行う。・Excel環境の管理・セルデータの作成・セルやワークシートの書式設定・ワークシートやブックの管理・数式や関数の適用・視覚的なデータの表示・ワークシートのデータの共有・データの分析と整理					◎	◎					○
専門基幹科目L群	キャリアデザインⅠ	金政信、三木弘和、園田洋一、千葉幸喜、佐藤伊知子、大内真弓、菅原好秀、渡部芳彦、中林稔晴、萩野寛雄、岡正彦、小崎浩信、山口政人、森明人、工藤健一、岩田一樹、高橋政行、松林武、佐藤英仁	『自己理解・他者理解』を目指す。	1年生を対象とした講座であり、自分の未来ならびに、やるべきことや目標を認識する。具体的には、自身の基礎的資質・能力を活用し、円滑にワークシートを使用したワークショップを通して、自己の特性、価値観を知り、それを仲間と共有し自己肯定観を育てる。またどんな人生、職業を選ぶか、具体的なキャリアプランを作成し、目的意識を持って大学生活を送る意識付けをする。さらに、インターンシップを考えている学生や、実学コースの学生、福祉、医療、教育等の専門職を目指す学生にとっても有意義な講座となろう。なお、総合マネジメント学部では必修の課目設定となっている。なお、本講座は集中講座、座学＋少人数ワーク形式で行う。				◎	◎		◎	◎	○	○	○
専門基幹科目L群	キャリアデザインⅡ	金政信、園田洋一、工藤健一、佐藤勘三郎、松本秀一、紺野啓二、中川亮介	『社会理解』を目指した講座である。基本は「広く業界を知る」ことを目指す。	広く浅く産業社会を知ると同時に、そこで生きて働く自分の将来を見据え、様々な職業、職種、それらの活躍の場である「業界」や実践の場である「組織（企業、行政、病院、福祉施設、学校、NPO、その他）」の基本的知識の修得と動向および現状を理解させる。座学＋ワークディスカッション形式で行う。				◎	◎		◎	◎	○	○	○
専門基幹科目L群	キャリアデザインⅢ	金政信、園田洋一、工藤健一、菅野健朗	『企業理解』にターゲットを絞ったカリキュラムになることを前提にして『産業社会の理解と業界理解、そしてそこで働くこと、生きること』を目指す。	私たちの周りには数多くの商品やサービスが存在し、使用や消費に供されている。これらの生産財はいったい誰がつくっているのか、また誰が提供しているのか、そしてそれはいかなる方法で提供されているのか、すなわちどんな業界があり、会社があるのか、いま一度経済と産業および企業等の実態について理解や分析をする必要がある。自己の将来・キャリアを主として企業で形成したいという学生にとって、実践ワークを通じてこれらの理解を深めたいと考える。企業で頑張りたいと思う学生向けの講座である。※なお、本講座は就職支援講座と連携しているため、②業界研究Ⅰ～⑩業界・企業研究までは履修登録しなくとも 聴講可能である。				◎	◎		◎	◎	○	○	○
専門基幹科目L群	リエゾンゼミⅠ（基礎演習）	医療経営管理学科全教員	「学士力」のベースとなる学習スキルやコミュニケーション能力の基礎に加え、身体的・精神的・社会的な健康の自律的マネジメントに有益な知識・態度も習得し、初めての大学生活に適応できるようになります。地域の課題発見・解決に即したPBLの基礎をチームで学んでいき、座学と実践の統合を通じて建学の精神を体現できるようになります。被災経験に根ざした防災減災の基礎知識を学ぶことで、自分はもちろん地域にも貢献できる人材になります。これらを通じて大学での自分の居場所を見つけ、四年間の大学生活の様々な基礎体力を取得します。UNIPAでの学修ポートフォリオやリエゾンノートなどのサポートツールを活用して主体的自律的な学修態度を体得し、初年次の学びを二年次以降の体系的な学びや将来のキャリア形成にリエゾンできるようになります。	1. 建学の精神・教育の理念・大学行事の意義について説明できる。 2. ゼミ生や教員、地域の人々とコミュニケーションをとることができる。 3. キャンパス・マナーおよび防犯・防災減災に基づいて行動することができる。 4. マイカルテシステムと元気点検票かるたを活用し、生活の自己管理デザインと健康向上行動に主体的自律的に取り組むことができる。 5. 大学の設備や学習スキル、UNIPA、学修ポートフォリオ等を活用し、学修に主体的自律的に取り組むことができる。 6. 「地域」をテーマにした問題について、グループでさまざまな観点から探究し、論理的に考え、課題を発見し、解決していくことができる。 7. キャリアリエゾンノートや学修ポートフォリオを活用して、自分を理解し、将来の展望を描き、キャリア形成に取り組むことができる。 8. 一つのテーマに対して、さまざまな見方ができ、論理的に考えることができ、グループで問題を探究し解決ができる。 9. 自分を理解し、将来の展望を描いてキャリア形成のための活動をできる。				◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

専門基幹科目L群	リエゾンゼミⅡ（専門基礎演習）	医療経営管理学科全教員	学籍番号ごとに小クラス単位に実施されるこの講座では、大学生活および卒業後の職業人生における基礎・基盤となるさまざまな事項について学びます。たとえば、新入生の皆さんが本学に1日も早く溶け込めるためのテーマ（建学の精神、カリキュラム、学生生活、ボランティア等）について理解を深めます。また、皆さんが、授業、ゼミ・研究、その他の諸活動を意欲的・自立的・効果的に取り組めるための基礎となる心構えやスキルを学びます。さらに、大学生・社会人そして卒業後の職業人生を意識して、倫理観、社会的責任、態度等について考える機会とします。そして、キャリアの形成・開発をはかります。	人間関係づくりや社会のルール・マナーの学習、学習スキルの習得、コミュニケーションのスキル・態度の習得を通して大学生活に適応できることをめざします。また、一つのテーマに対して、さまざまな見方ができるようになること、論理的に考えることができるようになること、グループで問題を探究し解決していけるようになることをめざします。さらに、自分を理解し、将来の展望を描いてキャリア形成のための活動をできるようになることをめざします。	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
専門基幹科目L群	専門演習Ⅰ	医療経営管理学科全教員	適切に資料を収集できる。 資料を基に自分の考えを導き、他人に説明できる。 他人の考えに対して、適切に意見を述べることができる。	個々にあるいはグループで具体的な課題を設定して取り組みます。特に、プレゼンテーションに重点を置きます。 （必要に応じて資料収集、討論、現場見学、アンケート調査、実験などを行います。）	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
専門基幹科目L群	専門演習Ⅱ	医療経営管理学科全教員	個々に取り組む課題を通して、各学生の能力に応じた到達目標を設定します。なお、個々の到達目標は異なりますが、すべての受講生が、基本的な学士力を身につけて社会に通用する人材、専門分野において特定の専門的知識やスキルを身につけて社会で必要とされる人材となることを目指します。	個々に課題を設定して取り組みます。必要に応じて資料収集討論、現場見学、アンケート調査、実験などを行います。特に、報告書の作成に重点を置きます。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
専門基幹科目L群	卒業研究	医療経営管理学科全教員	独創的な論文を構築できる。	個別研究指導を踏まえて、各自の研究テーマに沿った論文の構想・作成法を指導する。論文の書き方として、先行研究の調査と整理の仕方、論旨の組み立て、アウトライン、論点整理、実験・調査、課題と提言などの方法論を学ぶ。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
専門基幹科目A群	臨床医学各論Ⅰ	舩渡忠男、山口政人、尾形正裕	(1)感染症を引き起こす病原体を学習し、病態や臨床的な症状を理解する。 (2)感染症の流行の疫学について学習し、保健活動や予防対策を理解する。 (3)院内感染について学習し、予防対策や適切な対応を理解する。	感染症は毎年流行があり、社会的に注目される。新型インフルエンザのように新しい感染症が出現する一方、結核のように従来から問題となっている感染症が流行する場合がある。感染症を引き起こす微生物について学び、感染症の起こる機序と病態について理解する。感染症に対する予防および対策についても理解する。本授業は、事前の予習を重視し、毎回小テストを行い、最終の定期試験の評価に加える。	◎	◎	◎		○		○		○		
専門基幹科目A群	臨床医学各論Ⅱ	山内英生	日本人の死因の第一位である、悪性新生物（がん、肉腫、血液・リンパ節悪性新生物など）の本態、診断、治療、予後の総合的な理解	新生物とは細胞内遺伝子の突然変異により、細胞が死滅することなく増殖を継続する結果、腫瘤を形成し、悪性新生物（がん、肉腫など）では周囲組織に浸潤、リンパ節や遠方に転移を起こすものである。日本人の年間死亡者数約130万人のうちの第1位（30%）を占める悪性新生物（主としてがん）についての診断と治療、予後に関して、ほぼすべての臓器ごとの講義を予定する	◎	◎	◎		○		○		○		
専門基幹科目A群	臨床医学各論Ⅲ	舩渡忠男	血液・内分泌・代謝の生理と病態、各種血液・内分泌・代謝疾患の病態や検査値、検査法の原理や技術、臨床的意義、治療法について理解する	血液学・内分泌学・代謝学の病態生理を理解し、検査法および治療法について修得する。TBL（チーム基盤型学習）を取り入れ、予習を十分に行い、講義ではディスカッションを主体として、各種疾患における病態生理・検査法・治療法について、グループでの発表を行う。	◎	◎	◎		○		○		○		
専門基幹科目A群	臨床医学各論Ⅳ	坪川宏、伊藤博明	①神経系・感覚系の基本的な構成と、各々の主な機能を説明できる。②神経内科で扱う疾患のうち、代表的な10種類程度について特徴と症状・所見、診断法、治療法を説明できる。③眼科で扱う疾患のうち、代表的な5種類程度について特徴と症状・所見、診断法、治療法を説明できる。④耳鼻科で扱う疾患のうち、代表的な5種類程度について特徴と症状・所見、診断法、治療法を説明できる。⑤精神科・心療内科で扱う疾患のうち、代表的な5種類程度について特徴と症状・所見を説明できる。	講義の内容：中枢神経系および末梢神経の疾患、脳血管障害による疾患、感覚器疾患について、それらの特徴と症状・所見、診断法、治療法などについて系統的に解説します。学習のポイント：神経疾患は一般に難治性ですが、その多くは髄液検査、筋電図検査、脳波検査、脳循環検査などの結果から診断が可能であることを理解します。また、CTやMRIの進歩により脳の画像から病巣部位を特定する技術が発展し、病態や病因の解明が著しく進んできたことを学びます。備考：本講義で扱う疾患は、国際疾病分類（ICD-10）の第5章から第8章までに含まれます。	◎	◎	◎		○		◎		○		
専門基幹科目A群	臨床医学各論Ⅴ	戸恒和人、渡部芳彦	診療情報管理士に求められる重要な役割として、診療録に書かれた内容を読み、検査や治療内容を確認し、不明な点があれば医師に確認することがあります。そのために必要な、各種疾患に関する基礎的な知識の習得を目指します。本授業では、循環器・呼吸器系疾患について、基本的な病態生理学、症候学、診断学、治療法について学びます。	本授業では、呼吸器・循環器系の様々な疾病について、その原因、症状・所見、検査方法、治療方法及び治療に用いられる薬物の作用について学びます。また、各種疾患の予防についても理解を深めます。	◎	◎	◎		○		○		○		

専門基幹科目A群	臨床医学各論Ⅵ	山内英生	消化器臓器とは消化管（口腔、食道、胃、十二指腸、小腸、大腸、直腸、肛門）と消化管に分泌腺を有する臓器（肝臓、胆嚢、膵臓）のことであり、管臓器と固形臓器の事をいう。また、泌尿器系とは尿の排泄に関する臓器である腎、尿路、膀胱、尿道の事を指す。これらの臓器に加え男性・女性生殖器臓器における臨床医学各論Ⅱに於いて講義した新生物を除く疾患の本態、診断、治療、予後の総合的な理解	1．消化管（口から肛門までの管）の新生物を除く疾患、肝臓、膵臓、胆嚢、胆道の新生物を除く疾患2．腎・尿路の新生物を除く疾患3．男性・女性生殖器の新生物を除く疾患上記に関して本態、診断、治療、予後を臓器別に講義を行う	◎	◎	◎		○		○		○		
専門基幹科目A群	臨床医学各論Ⅶ	遠藤敦	診療情報管理に必要な女性生殖器の疾患について理解する。妊娠の成立、妊娠による母体の変化、胎児の発育、分娩、産褥について理解する。	妊娠の成立、妊娠による母体の変化、胎児の発育、分娩、産褥までの理解。特に、正常妊娠と異常妊娠、正常分娩と異常分娩について学ぶ。	◎	◎	◎		○		○		○		
専門基幹科目A群	臨床医学各論Ⅷ	河村孝幸、根岸直樹、藤井俊勝	皮膚・筋骨格系を理解し、診療情報管理士が担うべき能力を養う。	前半は診療情報管理に必要な皮膚領域の疾患と外傷を理解する。皮膚医科学総論、皮膚および皮下組織の疾患と外傷・創傷治癒を学ぶ。後半は診療情報管理に必要な運動器の疾患と外傷を理解する。整形外科学総論、骨関節系の障害の原因となる外傷、疾患およびリハビリテーションを学ぶ。	◎	◎	◎		○		○		○		△
専門基幹科目A群	国際疾病分類概論	星賢一	本講義では、国際疾病分類（ICD）についての理解を深め、歴史と現在の状況を概念するとともに、我が国における利用の状況を理解する。	疾病、障害および死因の統計は、各国の保健福祉行政の企画、人口問題研究、医学研究に必要な資料となるものであり、有用な統計を得るためには、適正な分類を用いることが重要である。現在、WHOに基づき作成された「疾病及び関連保健問題の国際統計分類（ICD国際疾病分類）」が国際的に使用されている。本講義では、国際疾病分類（ICD）についての理解を深め、歴史と現在の状況を概念するとともに、我が国における利用の状況を理解する。	◎	◎	◎	○			○		○		△
専門基幹科目A群	医療統計学	星伸之	統計学的手法を使い、病院における種々の統計資料について、適切な解釈が出来ることと、資料からグラフを作成することを目標として学んでいく。自ら、各種データについて統計学的手法を用いて、表やグラフを作成することができることが目標である。	診療情報記録に含まれる医療の質に関わる情報、傷病名等、必要な医療情報から、数学的手法を用いた統計的方法による考え方、分類の方法とグラフによる視覚化を学習および実践する。	◎	◎	◎		△	○	○		○		○
専門基幹科目A群	病理学	鈴木磨郎	医学の基礎である解剖・生理の概要に加え、医学用語を正確に学び、疾病の本質を理解することにより福祉に貢献出来るのを本授業の目標とする。	病理学は疾病の形態と機能および代謝の変化を追究する学問である。病気の原因が何か、そしてその病気がどのように発生するかを知る最も基礎的な医学の一分野である。疾病の予防・治療の根本に関わる分野でもある。病理学は人体の正常を学ぶのではなく、疾病における人体の異常を把握する学問である。授業は人体の解剖学・生理学・生化学の概要と共に種々の角度から病理学の理解を深めてゆく。この授業は医学用語を始め記憶することが多いが、授業内容を良く理解し、疾病を論理的に把握することが最も重要である。	◎	◎	◎				○		○		○
専門基幹科目A群	精神医学	松江克彦	各種精神疾患の原因や症状、治療などの理解をしっかり勉強することで、精神障害を正しく理解すること。また今日の社会における精神医学的問題についても、それらの知識を生かして、偏見無く理解し、支援出来るような応用力も養成することを目的とする。	近年、精神障害者の社会復帰施策をはじめ、自殺数の増加や災害ストレスの問題などが注目され、精神医学的知識への関心が高まっている。本講義では精神医学の成り立ちから説明し、精神医学関連の基礎知識、精神科診断の手順、各種精神障害とその治療法について理解することを目的とする。さらに、病院精神科医療、地域精神科医療についても解説し、社会的視点からの理解も深めるようにしたい。	◎	◎	◎				○		○		○
専門基幹科目A群	分類法Ⅰ	星賢一、永井健一、大塚京子	1）病名についての理解2）コーディングに関しての留意事項3）疾病分類のコーディングの実践	1）疾病分類とはどのようなものか理解し、分類の方法を学習する。2）ICD－10の各章に沿った分類技術と使用方法を習得する。3）ICD－10の2巻・3巻の使い方を習得する	◎	◎	◎	○			◎	○	○		○
専門基幹科目A群	分類法Ⅱ	永井健一、星賢一、大塚京子	1）各章の構成およびその特徴の理解2）コーディングに関しての留意事項3）疾病分類の実践及び死亡診断書のコーディング4）処置及び手術に対するICD-9CMの分類の学習	1）人体構造（解剖生理）、医学各論等で学習した知識を生かし、疾病の分類方法を学習する。2）国際疾病分類概論の学習と関連付けながら、疾病分類法の理解を深め、その特徴をふまえてICD－10の各章に沿った分類技術と使用方法を習得する。3）退院時要約や死亡診断書等を用いて診療記録の記載内容を把握し、診断名、医療行為および原死因のコーディングとそれを用いた情報活用の技術を習得する。4）診療情報管理士試験に合格できる技量を習得させる。	◎	◎	◎	○			◎	○	○		○
専門基幹科目A群	e-ヘルスケア論	折茂淳	本授業の到達目標として以下の3点を設定している。・ヘルスケアプログラムの種類と現状について知見を習得する・ヘルスケアにおけるIT技術の利用について具体的な事例を挙げられる・e-ヘルスケアの将来展望と問題点を自分の言葉で説明できる	「ヘルスケア」という言葉はその定義が一様ではないが、本授業では予防医学、健康管理、患者支援等の分野に焦点を当て、それらにおける情報処理、情報通信などのIT関連技術の活用事例や課題、将来展望等について考察を加えていく。	○	○	○	○	○	○			○	△	○

専門基幹科目 A群	病院組織論	小森康弘	近年の自然科学分野、医学の進歩に伴って医療環境は急速に、高度化・細分化しているのが現状である。また疾病構造や治療手法の変化に伴い、医療は、複数の知的専門職の知と技術を集結して携わる時代へと変わってきている。また社会における病院へのニーズも変化し、単に病気を治すだけではなく、そのプロセス、倫理的、心理的、社会的側面への配慮や対応も病院組織の重要な役割である。患者さんを中心とした良質で実態ある医療の実現に向けた、チーム医療の基礎を学ぶ目的と、その多職種それぞれに対する理解を深める機会とし、医療経営組織の運営における人材育成の一環とする。	①医療専門職種の理解②病院組織における事務系職員の役割③チーム医療の実態④サービスとしての医療⑤医療倫理⑥その他	◎	○	○	◎				◎	○	○	
専門基幹科目 A群	病院建築論	鹿戸明	建築（建物施設）としての病院を事例に、施設の機能確保と維持管理について、ハード面（機器・設備・インテリア）の概要とソフト面（人・物・情報の流れ）の基本を修得します。施設一般の維持管理ビジネスおよびデザインマネージメントに通じる学習を想定しています。	この講義では、病院建築（広くは医療・福祉施設）を、人間（人体）のcareとcureに不可欠な健康支援施設あるいはサービス容器として考えています。この視点に立って、講義の内容は大きく、1．病院の建築・設備機能の概要の理解と、2．施設環境の維持・管理方策の検討、の二つになります。具体的には、下記の授業計画に示したテーマとスケジュールに沿って、講義を進めていきます。	◎	◎	◎		○		○		○		△
専門基幹科目 A群	薬理学	小野木弘志	小テストの内容を理解し解答できるようになる。	医療秘書は疾病に対する理解や各種治療法を含め、あらゆる面から情報をとらえなければならない。病気の治療には数多くの薬が用いられ、現在の医療の中で薬物療法は治療の重要な柱の一つとなっている。医療に関連する業務に携わる者は、薬物療法についても正しく理解する必要があるため、薬に関する正しい基礎知識を学ぶ。	◎	◎	◎				○		○		△
専門基幹科目 A群	医薬品学	根岸直樹	医薬品学の理解	医薬品の科学として薬理学・薬剤学の基礎を学びながら、医薬品の相互作用・副作用・アレルギーなどを理解させ、小児と医薬品、高齢者と医薬品、妊婦・授乳婦と医薬品などについて体系的に学習する。次に、医薬品と臓器・組織への標的指向性の基礎を考えながら、個別な疾患と医薬品について学習する。さらに、食品、医薬部外品、化粧品や毒薬、劇薬についても学び、医薬品の副作用と薬害問題や一般用医薬品のリスク区分について生体と異物に関する総合的な生体反応について理解させる。最後に、登録販売者試験に必要な事項を整理・解説する。	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○
専門基幹科目 B群	ヘルスマネジメント論	関田康慶,青木博	1　健康概念について理解し説明できる。 2　ヘルスマネジメントについて理解し説明できる。 3　わが国の健康づくり政策を理解し説明できる。 4　健康産業の実態を理解し説明できる。 5　ヘルスマーケッティングを理解し説明できる。	ライフスタイルの変化に伴い、疾病構造は感染症から生活習慣病へと大きく変化している環境の中、健康増進・予防を目的とした「ディジーズ・マネジメント」に注目が集まっている。講義ではこの概念を健康増進・予防を実現するためのマネジメント手法と捉え、解説する。すなわち、健康とは何かを考え、アクティブヘルスの概念を理解し社会と健康の関わりと健康を個人としてどのように管理していくかの問題を取り上げる。また、健康は行動を起こす最も基礎的な資源でもあるためストレス、セルフケア、社会システムなど身体や精神と付き合う様々な方法を一緒に考えていく。講義は双方向で行い議論を深める。	◎	◎	◎	○	○		○		○	◎	○
専門基幹科目 B群	医療管理各論Ⅰ	千葉和夫	1．病院管理（経営管理と医療管理）について理解を深める。 2．病院管理のために医療情報管理の果たすべき役割について理解を深める。	病院管理として経営管理、診療管理、危険（安全）管理について理解することで病院の幹部職員としての素養を身につけることができる。実務経験のエピソードを交えて授業を進める。病院の各部門の役割と相互の関わりや診療報酬請求データの活用法などの基礎知識について、教科書と問題演習を基本に理解が深められるようにしたい。	◎	◎	◎		○			○	○		
専門基幹科目 B群	医療管理各論Ⅱ	千葉和夫	1．医療サービス提供に対する評価制度について理解を深める。 2．レセプトを読解できる。 3．診療報酬制度の特性を理解して、医療経営管理指標を活用できる。	医療の質向上に取り組んだ結果、提供された医療の評価が適正で妥当なものでなければ医療は疲弊する。医療提供の経済的評価であるのが診療報酬である。これは、一定のルールの下で診療録等に記載された内容に基づいて算出される。この制度を理解して、ルールと診療記録に従い適正に処理が実行されなければ、患者数や医療行為や傷病統計の信頼性が保たれず、過誤や過剰請求などを招いて保険医療機関指定の停止や取り消しに至るリスクもある。医療の評価に関する制度（仕組み）の基礎知識について、実務経験をまじえながら教科書と問題演習によって理解ができるようにしたい。	◎	◎	◎		○			○	◎	◎	

専門基幹科目 B群	会計学	日下儀雄	財務諸表を診て、判断できる能力を身につける。	年間と通して、財務諸表の「作成」から「分析」までを、総合的に学習します。財務諸表とは、企業の決算報告書ですので、今後の企業意思決定のための情報の宝庫です。有効に分析判断して、将来のために有効利用することが重要になります。授業は、簿記の基本を理解されていることを前提としますが、前期授業の前半に簿記の基礎を取り入れ、授業内容を理解できるように努めたいと思います。同時に簿記の授業を履修して、理解を深めていただくことも良いと思います。簿記や会計学は、社会人として必須の知識になっています。実務学習として、積極的に知識を身につけてください。	○	○	○		○	○	○				
専門基幹科目 B群	財務管理論	松原恭司郎	◆財務分析の主要な技法を理解している。◆企業の外部公開情報を基に財務分析を行い経営の実態を読み解く基礎力を持つ。	◆集中講義（三日間連続）の特徴を生かして、次のステップで授業を進行する。1）1日目に、基礎として簿記・会計の基礎と、財務諸表について学習する。2）2日目で、財務分析の基本について演習を交えて学習する。また、医療分野でも導入されているバランス・スコアカード（BSC）についても、財務の視点を中心に学習する。3）三日目では、企業の決算短信やIR（投資家向け広報）を基に、グループ演習形式で財務分析を行う。◆ケース企業は経営環境や企業業績などを踏まえて選定する。過年度は、JR東日本、京王電鉄、ファーストリテイリング（ユニクロ）、NTTドコモ、東北電力などを取り上げた。	○	○	○			○	○				
専門基幹科目 B群	人事管理論	佐藤正男	・労働観・職業観について持論を表明できるとともに、労働観と人事管理との係わりについて見解を述べることができる。・経営人事管理と総務人事管理の概念の違いについて理解するとともに説明できる。・人事管理における社員の区分制度の必要性・有益性について口頭説明および言語化できる。・職能資格制度の長所・短所について、具体的事例を示しつつ説明できる。・組織的価値について具体的事例を示しつつ、その有益性を説明できる。・人事管理の執行（運用）体制の設置・整備と実践の重要性について図解説明できる。・経営理念と組織文化の関係性について図解説明できる。・組織文化と人事管理の関係性について説明することができる。・人事管理に関連して、アメリカと日本の背景・事情の違いについて具体的事例に基づいて説明することができる。	人事管理とは、企業経営等に必要な人材の調達・維持・雇用管理・教育訓練と能力開発、動機づけ、労使関係管理等に関する管理活動全般をいう。本講座においては、こうした枠組みを基本に据えながら人事管理について解説する。具体的には、グローバリゼーション化のさらなる進展等による雇用社会の変転とその実態にも留意しながら、「人事管理の捉え方」・「社員区分制度」・「人事制度」・「雇用管理」・「労働時間と賃金管理」・「職場経営（ライン管理）」などに関して解説する。	○	○	○		○		○				
専門基幹科目 B群	医療経営戦略論	徳田　誠一	集患・増患作戦や診療科目の選択と集中などの実践例を通じて、医療機関経営の厳しさと共に、医療経営管理を学ぶ者に求められているものを認識すること、及び経営戦略理論で学んだ専門用語を理解し日常的に駆使できるレベルにまで高めることを目標とします。	最初に、医療の現状と問題点、及び医療事業の特徴を把握し、事業を継続し発展させてゆくためには収益の確保を柱とした経営戦略が欠かせないことを理解します。続いて、医療機関が患者満足度の向上や集患・増患、或いは経費節減のために実践している様々な工夫について具体例を学んでゆきます。その上で、ビジネス戦略の基礎理論や、次代の医療機関経営に資するための応用理論を学んでゆきます。また、自院の市場シェアを把握する方法、医療機関の広報活動についても学びます。随時、医療経営に関するトピックスや社会人として心得ておくべきことなども紹介し、答案やレポートは添削の上返却します。	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○
専門基幹科目 B群	雇用関係論	工藤健一	労使関係を含む雇用関係に関する基礎的な知識の習得を目標とします。併せて雇用形態の多様化や就業構造の変化などについて、最近の動きについても取り上げ、雇用関係に関わる現在の状況や課題についても理解を深めることを目標とします。	本講義では、雇用関係を軸として、労使関係の基本図式や歴史的変遷、就業構造や雇用形態の多様化、若者・女性・高齢者の雇用に関わる現代的な課題等について取り上げます。現代社会に生きる我々は、学業期を終えれば多くの場合、組織に所属して働きます。組織の大きさや種類は様々にありますが、共通することは雇用関係のもとで仕事をするということです。15回の講義を通じて、こうした我々の職業生活の基礎をなす「雇用関係」について、いくつかの角度から考察および解説をし、理解を深めていきます。	○	○	◎		○				○	○	
専門基幹科目 B群	医事会計概論	坪　茂典	医療経営の基礎となる経営資源の活用について理解する。 医療における経営の質向上へのアプローチを財務会計論を通じて理解する。	医療経営の中での重要な役割を占める、財務・会計について医療機関の組織運営の実際を踏まえて実践的な内容で講義します。 医療環境の変化の中で、医療事務専門職として必要とされる基本的な要件についても言及いたします。	◎	◎	◎		○				○	○	

専門基幹科目 B群	社会保険論	阿部裕二	1.身近な生活上の危険を理解することができる。2.生活における社会保険の重要性を認識することができる。3.社会保険の内容を理解して、自らの生活に活用することができる。	社会保険に対する信頼が揺らいでいる。しかし、私たちの生活上避けて通ることのできない老齢や疾病、障害、死亡などの危険に対応するために、社会保険の果たすべき役割は大きいといわざるを得ない。誰にとっても社会保険は身近な制度なのである。したがって、私たちは今まで以上に社会保険に関して興味を持って学ぶ必要があると思われる。そこで、本講義においては、保険の仕組みを理解した上で、社会保険の理論的な考察や具体的な制度の仕組みと現状、そしてそれらが抱えている諸問題について講述する。		◎	◎		◎						○	
専門基幹科目 B群	医療機関実習事前指導	山口　政人、舩渡　忠男、坪川宏、似内　寛、渡部　芳彦、河村　孝幸、小山美智子	次の3点を目標とする。 ①医療従事者の心得を学ぶ。 ②医療従事者に求められる対人対応力、接遇力とは何かを理解する。 ③上記理論を理解し、医療現場(実習)で接遇が実践できるための基礎力を身につける。 ☆【医療経営管理学科の実習規定】:3年次の「医療機関実習」においては、1年次及び2年次において診療情報管理士資格取得における必修科目(基礎課程24単位、専門課程24単位)の合計48単位を習得することが要件となる。かつ、2年次の「医療機関実習事前指導」において、接遇に関する知識および技能を習得し、筆記と実技の両試験等に合格し、単位を取得する必要がある。	医療事務職員には、最上の医療サービスを提供するために様々な人と良好な人間関係を構築する力が求められる。例えば、医師、看護士を始めとする医療専門スタッフ、患者さん、その家族、企業の人々である。3年次に医療機関実習を履修する者は、「医療従事者としての基本姿勢」を学ぶ必要がある。 以下の4点を重視する。(1)医療従事者として求められる対人対応力、接遇力を現場の事例を通して学ぶ。 (2)実習を理解するための座学や演習を行う。 (3)実習先のマッチング作業を行う(模擬試験、面接試験)。(4)医療機関への申請書類の作成、手続きを行う。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
専門基幹科目 B群	医療機関実習	舩渡忠男、山口政人	医療機関において、大学のおける机上の学習だけでなく、理論と実践を融合させ、職業人として必要なマナー、常識的行動を修得する。	病院実習する上での準備、実習における開始から終了までの展開、諸注意などを2~4週間の短期間実習を通して学んでいく。病院の基本的機能の理解、入院および外来診療録の具体的管理状況の理解、診療録管理部門の病院内で果たしている機能の理解、疾病統計・サマリーがどのようなものかを具体的に理解する。診療録の量的・質的点検の方法および編纂の実習、記録の収納、検索、貸出業務を実習する。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
専門基幹科目 C群	データ構造とアルゴリズムⅠ		「アルゴリズム」とは「算法」と和訳される語であり、「問題を解くための処理手順を定式化したもの」=「問題解決のための定石」でる。この定石の適用範囲は非常に広く、一見して、似ても似つかない問題であるにも関わらず、それを解決するのに同じアルゴリズムを使用する場合は多い。一方で、実際の問題解決は、計算機で作動する「プログラム」によってなされるが、その「プログラム」は「アルゴリズム」をプログラミング言語(VB	受講者はプログラム作成の初心者であることを想定している。 講義では、アルゴリズムの表現の基本であるフローチャートの書き方を解説し、その後、代表的なアルゴリズムとアルゴリズムの評価法の説明を行う。						◎	○				○
専門基幹科目 C群	データ構造とアルゴリズムⅡ	岩渕正則	データ構造とアルゴリズムⅠに続く内容である。処理手順を示す手法として、主にフローチャートと情報処理技術者試験に出題される疑似言語を用いる。疑似言語の手法を理解し、基本アルゴリズムから応用アルゴリズムまで理解することを目標とする。また、情報処理技術者試験に合格できる水準になることを目標とする。	疑似言語の基礎的な内容を学習する。次に疑似言語の記述に慣れることを目標にアルゴリズムの基本パターンを流れ図と比較しながら理解する。その後、疑似言語を用いた基本アルゴリズムから応用アルゴリズムまでの知識収得と、過去に出題された情報処理試験を解いていく。						◎	○				○
専門基幹科目 C群	プログラミング基礎Ⅰ	漆山純一	VisualBasicのプログラムコードが理解できる。簡単なVisualBasicのプログラムが開発できる。2方向分岐、多分岐、ループ、一次元配列などの基礎的論理構造やデータ構造が理解できる。奇偶判定方法、選択法や泡立ち法などの基礎的なアルゴリズムが理解できる。	諸君が普段使用している携帯電話には、通話やメール機能の他、ゲーム、電話帳、電卓、ワンセグテレビなど様々な機能が搭載されているが、それらのほとんどがソフトウェア、つまりプログラムによって実現されている。プログラムは、その他、自動車、電子炊飯器、ディジタルカメラ、パソコンなど、ありとあらゆる機器に搭載され、我々の日常生活にとって不可欠な存在となっている。本実習では、プログラミングの初歩からパソコン上で動作する基本的なプログラム開発技法まで実習を交えて学ぶ。プログラミング技術は、将来、IT業界に就職したい人はもちろんだが、一般企業や医療・福祉の分野、公務員を目指す人にとっても有益である。						◎	○				○
専門基幹科目 C群	プログラミング基礎Ⅱ	漆山純一	VisualBasicの基本コントロールを用いたプログラムが開発できる。複数方向分岐や前判定反復・後判定反復などの論理構造が分かる。ユークリッドの互除法や挿入法ソートなどの基本アルゴリズムが分かる。2次元配列や構造体などのデータ構造が分かる。ユーザ定義プロシージャ(関数やサブルーチン)を使ったプログラムを開発できる。	プログラミング基礎Ⅰにおいては、VBを用いてプログラムを開発するための基本的な技法について学んだ。プログラミング基礎Ⅱにおいては、これを発展させ、Windowsプログラミングに不可欠なさまざまなコントロールの使用方法を学んだ上で、より複雑なプログラムを開発するために必要な分岐命令、ループ命令、2次元配列、構造体、関数やサブルーチンなどについて学ぶ。また、データ構造とアルゴリズムⅠ、およびⅡで学んだいくつかのアルゴリズム(テーブルサーチ、各種ソート法、10進2進変換など)を実際にプログラミングして、処理手順の検証を行う。これにより、プログラミングにとってアルゴリズムがいかに重要かを学ぶ。						◎	○				○

専門基幹科目 C群	情報処理応用実習Ⅱ	似内寛	パソコン用リレーショナルデータベースソフトの基礎的な操作ができる データベースのテーブル作成に関する各種操作ができる リレーションシップの概念を理解し、設定などの操作ができる リレーショナルデータベースの操作（選択、射影、結合）ができる 入力補助画面（フォーム）の作成ができる 印刷形式（レポート）の作成ができる	パソコンを使用した情報処理は、研究・ビジネス・医療・福祉などあらゆる分野で欠かすことができない ものとなっている。そこで、情報処理基礎実習では文書作成と表計算の技能を習得し、それを踏まえて本 授業ではリレーショナル型データベースの操作技能の実習を行う。また習熟度を確 認するため、外部機関が実施している一般的な資格試験の受験も促し、実力を証明できる状態を目指した い。	○				◎	◎	△				△
専門基幹科目 C群	データベース論	#N/A	データベース（DB）の使用方法や利用方法を理解するため、SQLと正規化によるテーブル作成を理解する。	情報化社会といわれる現代において、情報が大きな価値を持つ時代であると考えられる。そのため、収集され蓄積されたデータを利用者の意思の疎通を助けたり、意思決定を支援するような役割を果たすものへと変化させる必要がある。そうしたデータを情報や知恵として活用するための根幹として重要性を増しているデータベース管理システム（DBMS）を含め、データベース（DB）への理解を深める。				△	○	◎	○				○
専門基幹科目 C群	ソーシャルメディア論	谷田部　武男	① インターネットのメディアとしての特徴と問題点を理解する ② ソーシャルメディアについて理解を深める ③ 自身の情報リテラシーを高める	インターネットが不可欠のインフラとして現代社会に定着して以来、従来のメールやWebページにとどまらず、次々と新たなサービスが登場している。中でも最近とくに注目されているのは「ソーシャルメディア」と呼ばれるサービス、具体的にはSNS（Facebookやmixiなど）やtwitter上の双方向コミュニケーションである。今やソーシャルメディアは仲間内のコミュニケーションにとどまらず、就活などにも利用されるようになっている。この講義ではソーシャルメディアの特徴や問題点について実例とともに解説していく。				△	○	◎	○				○
専門基幹科目 C群	情報ネットワーク論	似内寛	1．知識・理解（1）情報ネットワークのOSI7階層モデルを説明できる（2）LANの構成と、通信の基本的な仕組みを説明できる（3）インターネット接続の構成と、通信の基本的な仕組みを説明できる（4）ネットワークセキュリティの基本的な仕組みを説明できる2．思考・判断LANとインターネット通信の、通信経路などについて総合的に理解し説明することができる3．関心・意欲自宅や大学のネットワーク接続経路について、考察してみる	インターネットやオフィスで利用する小規模LANなどの、コンピュータの情報ネットワークは、コンピュータの専門家以外の人間でも、日常的に、頻繁に利用する状況にある。そして比較的エンドユーザーに近いユーザーでも、便利な活用法を工夫できるような仕組みがいろいろ登場している。この授業では情報ネットワークの基本的な仕組みの理解と、それを応用し提供されている便利なサービスについての視野を広げることを目的としている。	○	○	○	△	○	◎	○				○
専門基幹科目 C群	インフォメーションデザイン論	似内寛	1．知識・理解（1）都市の移動の情報提供手段と、情報利用者の特徴について説明できる（2）Webの情報提供と、情報利用者の特徴の関係について説明できる（3）プレゼンテーションの情報提供と、聴衆の特徴の関係について説明できる（4）ピクトグラムや色の効果的な利用について説明できる2．思考・判断（1）情報デザインの必要性を、自分なりの具体例を用いながら説明できる（2）情報利用者の特徴と情報デザインの関係を、自分なりの具体例を用いながら説明できる3．関心・意欲（1）地下通路のサイン環境をデザインする（2）利用者の特徴ごとに、Web利用者のページ移動行動を予測する（3）ピクトグラムの作成を行う（4）色の組み合わせを考慮したポスターをデザインする（5）聴衆の特徴ごとに、聞き手を説得するためのプレゼンテーションの構成を考える	「分かりやすく情報を表現する」ということをテーマに、都市のナビゲーション、コンピューターのインターフェース、プレゼンテーションの情報表現、文章の情報表現、数値データの分かりやすい表現、Webデザインのためのアクセシビリティ、ユーザビリティを例に、その考え方と、表現の技術を考察する。	○	○	○		○	◎	○				◎
専門基幹科目 C群	情報ネットワーク基礎実習		1．HTMLの基本的な構造を理解し、作成することができる2．CSSの文法を理解し、それを用いたWebページデザインを行うことができる3．利用しやすいナビゲーション構造を設計し、実際に李君された複数のWebページを作成することができる4．JavaScriptの基本的な文法を理解し、簡単なプログラムを作成することができる	本実習では情報ネットワークとしてもっとも身近な、Webのクライアントサイドについて詳しく理解することを目的とする。具体的にホームページの基本的な作成方法の学習から始めて、徐々にレベルを上げてゆき、javascriptを使った動きのあるホームページや、クラウド時代に対応した新標準HTML5につて実習する。特に、Webブラウザをインターフェースとした、種々のサービスや、Webのクラウドサービスをスマートフォンから利用する場合などに欠かせない技術となっているJavaScriptと、JavaScriptのライブラリなどを積極的に取り込み進化したHTML5について、その意義と活用方法を理解することを目指す。	△	△				◎	○				○
専門基幹科目 C群	医療情報システム運用実習	#N/A	Microsoftの資格試験であるWord，Excel	Powerpoint，Accessの合格を目指す。						◎	○				○
専門基幹科目 C群	情報処理資格対策Ⅰ	渋谷正行	情報処理国家試験のITパスポート試験合格	ITスキル、ストラテジ、マネジメントの基本的な講義と問題演習による応用力の養成						◎	○				○
専門基幹科目 C群	情報処理資格対策Ⅱ	渋谷正行	基本情報処理技術者試験の合格	情報処理の国家試験である基本情報処理技術試験の受験に向けて、基本事項の講義と問題演習による応用力を身に付ける。						◎	○				○